

明神礁の海底地形調査

Bathymetric Survey at Myozin Syo

海上保安庁水路部
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

水路部が、1993年(平成5年)6月に測量船「昭洋」及び自航式ブイにより実施した明神礁の海底地形調査について報告する。

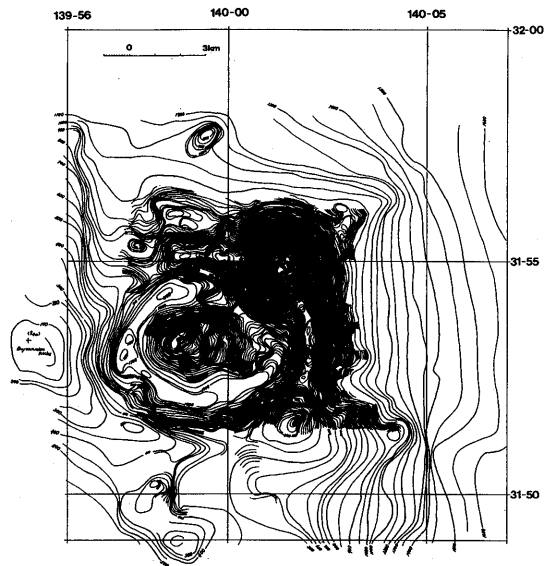
明神礁は、青ヶ島南南東約35海里、ベヨネース列岩の東北東約6海里に位置する海底火山であり、1952年の噴火の際に命名された。

ベヨネース列岩を含む明神礁の火山活動は、有史以来何度か激しい噴火が行われていることが確認されているが、最近では1970年(昭和45年)を最後に噴火は確認されていない。また、変色水の視認も1986年(昭和61年)までであり、その後は確認されていない。

明神礁及びその付近の海底地形は、ベヨネース列岩を西側のカルデラ縁とする水深1,000mを超えるカルデラが形成されており、カルデラの北東側にある明神礁は、カルデラ縁の一部であるが、カルデラ形成後にできた後カルデラ丘である。

明神礁は、最浅水深22.5m(31°54'56"N, 140°01'24"E)の端正な円錐形をした山体であり、その西及び南側には、水深約500~600mの尾根が続いている。

カルデラの南東側の縁には、明神礁と同様の最浅水深237mの火口丘が、カルデラの中央には、比高約650m、最浅水深340mの中央火口丘がそれぞれ存在する(第1図)。



第1図 明神礁周辺の海底地形図
Fig. 1 Bathymetric Chart around Myozin Syo

参考文献

- 1) 小坂丈予(1991):日本近海における海底火山の噴火, 128-156
- 2) 塚本 徹・福島秀生・桑木野文章・坂本政則・楠 勝治・大島章一・菊池真一(1990):自航式ブイ「マンボウ」による明神礁調査, 水路部研究報告, 26, 45-60

* Received 10 July, 1995